

[研究論文]

思考体力を活用した小学校社会科の実践的研究

-Action Research on Elementary School Social Studies Using Thinking Strength-

枇 杷 かなえ

Kanae BIWA

花 島 秀 樹

Hideki HANASHIMA

福岡教育大学大学院教育学研究科
教職実践専攻教育実践力開発コース
初等教科高度実践力特別プログラム

福岡教育大学
教職実践研究ユニット

(2024年1月31日受理)

要約：小学校学習指導要領（2017）では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の重要性が指摘された。特に「深い学び」については、田村（2018）が「『知識・技能』が関連付いて構造化されたり身体化されたりして高度化し、駆動する状態に向かうこと」と定義している。また、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会科編では、社会的事象に対して視点や方法（考え方）を用いて関りを深めていく授業改善の重要性が指摘されている。そこで、本稿では、思考体力（西成2021）に着目して、「深い学び」を実現する単元構成を行うことにした。このことを通して、子どもたちが様々な選択・判断を通して自分の考えをもつ中で、社会及び自身の生活とのつながりや関係性を考え続け、社会的事象への関心を深めることを意図した社会科学習の授業実践について報告する。

キーワード：小学校社会科、深い学び、思考体力、考え続ける力

1. はじめに

小学校学習指導要領（2017）では、各教科の目標及び内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）に沿って再整理されるとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の重要性が指摘された。この「深い学び」については、田村（2018）が、「『知識・技能』が関連付いて構造化されたり身体化されたりして高度化し、駆動する状態に向かうこと」と指摘している。また、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会科編では、社会的事象の意味や相互の関連に着目し、社会にある課題の解決に向けて考えることが求め

られており、社会的事象に対して視点や方法（考え方）を用いて関りを深めていく必要がある。さらに、澤井ら（2017）は、社会的事象への見方・考え方を働かせて考え、理解することのできる子供は、社会に見られる課題やこれからの自分について考えることができると指摘している。この見方・考え方を働かせて真正な課題を設定し、課題追究のために必要な情報を選択・判断して自分の考えをもち、自身の生活とのつながりや関係性を考え続けられるようになることが社会的事象への関心を深める子供の姿であると考えられる。

そこで、本研究では、思考体力（西成2021）に着目して単元構成を行い、様々な選択・判断を通して自分の考えを持つ中で、社会及び自身の生活とのつながりや関係性を考え続け、社会的事象への

関心を深めることができる社会科学習の確立をめざすことにした。なお、思考体力とは、考え続ける力と定義した上で、「自己駆動力：能動的に考え、自ら疑問や課題を見つける力」、「多段思考力：観点を変えたり物事を分解したりして新しい見方を追究する力」、「場合分け力：細分化した情報を見直しながら分類・整理をする力」、「大局力：分解したことをまとめたり全体を俯瞰してみたりする力」といった様相をもつものである。これらの思考体力を子どもたちに養うことは、社会的事象について、段階を踏みながら思考を拡大・深化させ、子供が考え続ける力を育む上において意義深いものとする。

なお、本稿の「授業事例」について枇杷が執筆し、その他については、花島が執筆した。

2. 研究の目的

本研究では、思考体力を活用した授業を展開して、社会的事象の位置づけを検討したり、自身の様々な選択・判断をしたりしながら、自分の考えをもつ中で、社会的事象への関心を深め、生活とのつながりや関係性を考え続け力の育成を図る小学校社会科授業の実践指針を明らかにする。

3. 研究の実際

(1) 研究の概要

本研究では、学習活動の中に思考体力を活用する場面を設定し、自身の事象に対しての見方や考え方について捉え、理解することができる授業づくりを行っていく。子供が世の中の移り変わりや生活とのつながり・関連付けを行う中で、社会的事象に関心を持つことができるように促す。

今回の実践においては、学習活動の中で思考体力を意識し、活用できるような手立てを取り入れた授業を構成する。具体的には、下表に示すように、自己駆動力、多段思考力、場合分け力、大局力の4つに分類した思考体力を子供でも理解し活用できるように、更に細分化し簡単な言葉に変え、活動の際にその視点や言葉を用い、活用させながら考えさせていくことにした。

- ・ **比べる**…今の状況や他の事柄と比べてみる
- ・ **鷹の目**…視野を広くして、全体を見る
(大きな目) *鳥のように高いところから!
- ・ **ありの目**…1つのことを細かく見る
(小さな目) *ありのようにコツコツ!
- ・ **立場チェンジ**…見方を変えて考える
*その人になりきって!
- ・ **見つけたこと**…調べて分かったこと
発見した(気づいた)こと
- ・ **考えたこと**…調べて分かったことから、自分なりに考えたこと(自分の意見)
- ・ **関連付け**…調べたことをつないで見る
関連性を探す
- ・ **これから**…これから活かしたいこと
取り組みたいこと

(2) 実践事例

○ 第6学年1組 社会科学習指導 授業実践者：枇杷かなえ 令和5年11月21日～12月1日

1. 単元名 「明治の新しい国づくり」

2. 単元のねらい

本小単元では、明治の国づくりについて調べ、交流する活動を通して、江戸時代末期から明治初期にかけて、当時活躍した人物や関わりのある藩を中心に国づくりに関わる主な事象を捉え、今につながる出来事や文化が明治の時代に誕生したことを理解できるようになることをねらいとする。また、自身の生活や現代社会にどのように関係しているのかということにも関心を持つことができるようにする。

3. 指導の手立て

〈手立て①〉子供が主体的に取り組む単元構成

本小単元においては、教師が一方向的に知識や事象を説明するのではなく、子供の「なぜ?」「知りたい」を活かして各自が興味をもったことについて調べさせる。子供同士で考えを共有する場を多く取り入れ、子供自身で歴史的な事象について学び、考えていくことができるようにする。

〈手立て②〉様々な視点から考えるための思考体力ワードの活用

調べ、考えていく過程において、事実を捉えるだけに留まることのないように、活用しやすいように簡潔にまとめた思考体力ワードを用いて活動に取り組みさせる。

〈手立て③〉自己の考えをもち、表現することができる授業スタイル

対話や議論を通して自己の考えを広げることができるようにするために、個人活動→複数人(集団)活動→個人活動という流れを毎時間取り入れていく。他者との交流において、自分の考えを相手に表現する方法を身に付けるとともに、他者との対話を経て多様な考えがあることを知るができるようにする。

〈手立て④〉 自己の考えの変容や学びを深めるための振り返り

自己の考えの変容を掴むことができるように、交流を経て感じたことや疑問に感じたこと等を踏まえて毎時間の終わりに振り返りを行っていく。「～と比べて」「〇〇より△△だと考えた」「これからは」などのキーワードを提示して振り返る際の視点を与え、考え方の定着を図る。

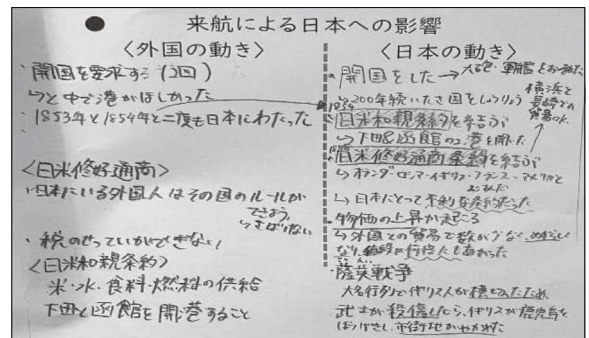
4. 単元構成

	時間	主な学習活動・内容	取り入れた手立て
導入	1	黒船来航と江戸時代の変容を捉える	〈手立て②〉 〈手立て③〉 〈手立て④〉
	2	学習問題の設定 【学習問題】 明治はどのような国づくりを目指したのだろう。	
展開①	3	“明治が目指した国づくりについて”の探究活動 ・4グループに分類（薩摩藩、長州藩、土佐藩、くらしや文化） ・各自スライド作成	第3時
	4		： 〈手立て②〉 〈手立て④〉
	5		第5時： 〈手立て②〉 〈手立て③〉 〈手立て④〉
展開②	6	交流活動	〈手立て②〉 〈手立て③〉 〈手立て④〉
	7	活動①：4人1組の班で交流活動、情報収集 活動②：明治の国づくりについての話し合い・まとめ	
終末	8	学習問題のまとめ	〈手立て②〉 〈手立て③〉 〈手立て④〉

5. 授業の実際

〈導入〉

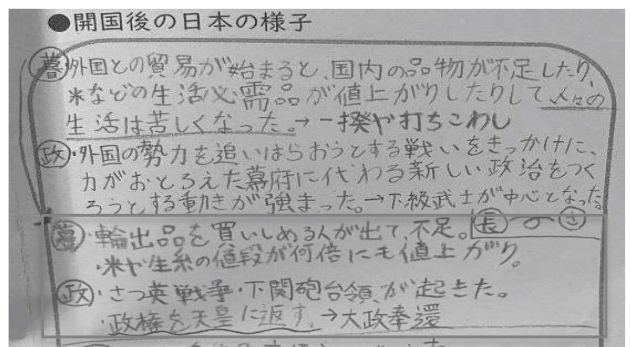
導入段階においては、江戸から明治に時代が変わることを捉えさせていった。その中で、黒船の来航、開国後から日本国の動きが変化していくことを捉え、江戸末期から明治時代の政治や人々のくらしに興味・関心をもたせることをねらいとした。ここでは、当時の状況や人々の思いについて、日本と外国それぞれの立場から考える活動を設定した。その結果、それぞれの立場を矢印でつなぐなど自身で関連性を見つかったり、外国の動きにも目を向けながら江戸末期から明治にかけての国づくりに関心をもったりすることができていた。また、他者の意見を聞いて考えを深めることができるようにするために、交流活動の時間を多く確保した。子供たちは、互いに調べて分かったことや考えたことを伝え合い、自分になかった考えをワークシートに補足して記述をしている姿が見られた。導入段階では特に手立て③を意識した授業構成を行ったため、振り返りの際に交流を経て自己の考えの変容を捉えている記述や新たな疑問をもった記述が多く見受けられた。このように、自分の考えをもち、表現する場面を多く設定することは自己の学びを深める上で有効な手立てであったと指摘することができる。



【ワークシートの記述例】



【自己の考えを伝え合う子供たち】



【補足している記述例】

〈展開①〉

明治が目指した国づくりについて、子供自身が調べ、まとめる活動を行った。自身で調べ・考えることで、起こった事象やその後の影響など、物事を様々な側面から考えることができるようにすることをねらいとした。ここでは、物事を多面的に見ることができるよう、人物だけに着目するのではなく、3つの藩（薩摩藩・長州藩・土佐藩）とくらし・文化の4グループに分類し、調べ・まとめる活

動を設定した。また、子供が意欲的に学習に取り組むことができるようにするために、調べる内容は明治の国づくりに関して自分が選択した分類と関係のあることの中から、子供の「気になる」「知りたい」ことを調べてまとめるように促した。活動に取り組ませる際には、調べて整理する際のポイントをまとめたもの

調べてまとめる際のポイント

- ・誰が、何のために、どのようなことを
- ・つながりを見つけたり、比べたり
色々な側面から考えてみる
- ・調べて分かったことにプラスして、
自分の考えも書いてみよう！

【図1 まとめ方のポイント】

比 ↑同じところ 違うところ	見 ↑新しく発見したこと
鷹(大) ↑全体を見る	考 ↑自分の考え
鳥(小) ↑1つ1つ細かく見る	関 ↑関係があると思うところ
チェ ↑見方を変える その人になりきって考える	こ ↑この先自分がどうしていきたいか、大事だと思うこと

【図2 思考体力活用例】

(図1)や思考体力の活用の仕方をまとめたもの(図2)、スライドの例を提示して見通しをもって活動に取り組めるようにした。自分の思考の流れ掴むことができるように、図2を子供に意識させ、活用していくように声掛けを行った。その結果、図1や図2を活用しながら、事実だけではなく関連性や自身の考えを付け加えながら事象についてまとめている子供が多く見受けられた。また、更に深掘りして調べてまとめている子供もおり、まとめた内容から思考体力を活用することができていたことが認められた。

<h3>明治時代の服装はどのように変わったのを知ろう</h3> <p>右の写真を見て見たら江戸時代の服装は、刀を持って下駄を履き和風の服装です髪をみんな結んでいます。一方明治時代の服装はスーツや、スカートの付いたズボン、ネクタイがありなどが洋風みたいです。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>江戸時代</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>明治時代</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">比</p> <p>明治時代の服装は色々と、外国の技術を入れている！！</p>	<h3>明治時代と今のお金の価値はどうなってるのか</h3> <p>明治時代はななんと今のお金の、.....</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">1490倍</p> <p>にもなって明治時代の1000円札は今のお金で表すと149万円の価値になるのです。</p> <p style="font-size: 1.5em; font-weight: bold;">すごい額になってるね</p> <p>考えたこと こんなに高くなっているのは、やっぱりすごい年数がたっていてこの豊島で保管してきた価値だと僕は思いました</p>
--	---

<h3>長州藩</h3> <p>新しい政治を作ろうとした長州藩の人物</p> <p>・木戸孝允 ・吉田松陰 ・高杉晋作 ・伊藤博文 ・山縣有朋(やまがたありとも)</p> <p>どんなことをしたのか・何をして有名になったのか</p>	<h3>考</h3> <p>国をしっかり導いていけるような役目になったり政策をしたから。</p>
--	--

<h3>吉田松陰</h3> <p>長州藩に生まれた彼は私塾「松下村塾」を設立。のちに明治維新という明治時代の政策を支える高杉晋作や伊藤博文などといった政治の要人を育てたことで有名。だが彼は1859年10月27日に29歳という若さで幕府に処刑される。この処刑は井伊直弼(いいなおすけ)という人の安政の大獄というものの一環としてしていた。彼は首を切られ誠にむごいことに首を切られ下帯一枚で放り出されてしまう。</p>	<h3>立場チェンジ</h3> <p>自分が吉田松陰とって考えるとせっかく要人を育ててやったのにとと思う。</p>
--	---

<h3>教育</h3> <p>吉田松陰はどのような教育をしたのか</p> <p>彼が最も重視した教育方針は将来の目的を定めること、つまり立志だった。「志を立てて以て万事の源と為す」、「業の成ると成らざるとは志の立つと立たざるとに在らず」という言葉を残しているように人は志さえ立てば自ずと成長できると固く信じていたようだ。安政の大獄によって牢に入っていたとき600冊を読破している。この感想を細かく手帳に書いて周囲に語り始め、最初は無視していたが話が入ってくるので聞いていて面白かった。この事によって囚人は彼の講義を楽しみに待つようになったそうだ。</p>	<h3>ありの目</h3>
---	---------------

<h3>国づくり</h3> <p>吉田松陰はどんな国づくりを目指したのか</p> <p>彼は攘夷の主張と西洋との交流、つまり攘夷と開国は矛盾していないという柔軟な考え方を持っていた。国家としての名譽を損ずる仕方での外国との干渉は頑固拒絶するけど、独立した国家として「名譽を持って存在するためには西洋の兵器・兵学を学ばなければいけない」と思っていた。彼は学問は世のため、人のため、国のためにありそれを責任に結びつける「実践知」という考え方だった。</p>	<h3>考</h3> <p>吉田松陰は国のために学問を学びここでまなんだことを政治のリーダーとして政治を進めてほしいと思っていたと思う。</p>
--	--

〈展開②〉

交流活動を通して、得た情報を付加して新たに自分の考えを整理することや自身が調べたこととの関連性を見つけることができるようになることを意図した。

交流活動①では、段階を踏みながら考えをまとめることや事象に対する見方を広げることができるように、付箋を活用して交流活動を行わせた。また、発表者は相手に伝えたいことを厳選し、分かりやすく伝えるように促すなど、表現する方法も工夫させた。交流を行いながら付箋に情報をまとめることにより、聞き手は、発表を聞きながら重要な情報を簡潔にまとめたり、分かったことから自分の考えを付け加えたりしている子供が多く見られた。発表者は、自身がまとめたスライドの内容を整理し重要なことを強調しながら相手に伝える工夫を行っていた。



【付箋を活用して交流活動を行う子供たち】



【表現を工夫して活動に取り組む子供たち】

交流活動②においては、

交流活動①で書いた付箋からつながりを見つけ、明治が目指した国づくりについて各班で考える活動を設定した。ここでは、一枚の模造紙に4つの枠を設け、4グループをそれぞれまとめることができるようにした。付箋は分類ごとに色分けをしていたため、分類ごとにまとめる活動を行った。調べた



【分類ごとを比較しまとめている子供たち】



【事象同士の関連付けをしている例】

ことをまとめるだけでなく、江戸との違いや現代と関係する点に着目させながら交流を行うよう促した。その結果、各自でまとめた付箋を見比べて、関連があるところは矢印でつないだり枠で囲んだりするなど、1つ1つを細かくみる視点や全体を俯瞰してみる視点を使い分けながら活動に取り組んでいる姿が見られた。また、同じ事象についてまとめている場合でも、重要だと感じる部分が同じことを捉えていたり、自分にはない考えを見つけ、新しい見方・考え方があることを感じたりしていた。このことは、子供が思考体力の視点を活用しながら自分の考えを持ち、事象を多面的に見ることができるようになったことを示唆するものといえる。

〈終末〉

明治が目指した国づくりについてまとめたことを他の班とも交流する活動を設定した。ここでは、事象の見方・考え方が多岐にわたってあることや現代とのつながりを掴むことができるようになることをねらいとした。自身の班の見解を説明する機会、他班の考えを聞きに行く機会を設定した。他班との交流では、自分たちの班がどのように考えたのかを、付箋や矢印に指差ししながら順を追って説明していた。また、新しく得た情報をノートに付け加えたり、右記のように現代との関連付けやこれからのことについてまとめたりしている子供の姿が多く見られた。

- C1:学習する前に比べて、特に政治(富国強兵、廃藩置県など)に興味をもった。学習したことが大正・昭和・平成・令和にかけてどうつながるかを見ていきたい。
- C2:電車等の交通機関が明治時代にできたが料金が今よりすごく高い。これから今になるまでどのように料金が下がったのか知りたい。
- C3:交流を行い、自分では気付かなかったことや考えていなかったことを他の人から知ることができた。これからは自分が新しい意見を伝えていきたい。

自分の考えを伝える側は思考を整理しながら言語化すること、聞き手側は情報を取捨選択して簡潔にまとめている姿が認められた。また、全体でのまとめでは、表現の方法は異なっていたが、各班でまとめた考えが類似していることを捉えながら明治が目指した国づくりについて理解し、現代の生活や自身との生活に関係している部分があることを実感し、発言している児童の姿が見られた。振り返りにおいても学習前と後での内容の捉え方が変わったことや興味・関心をもてたこと、次の時代や単元の学びに生かしたいこと等を記述している児童が多数見受けられたことから、社会的事象に関心をもたせることができた点において有効な手立てを講じることができたと考える。

6. 成果と課題

単元を通して、思考体力を活用して多面的に事象について考えることができていた。特に、調べ・まとめる活動や交流活動においては、思考体力を活用できる場面を多く設定したため、見方・考え方を広げることができていた。活動の際のポイントを提示したことやモデルを提示したことも、子供たちに活動内容を捉えやすくさせ、見通しをもって活動に取り組ませることができた。また、学習したことから自分の考えをもつ子供や、現代の生活とのつながりを見つけている子供の姿が見られたことから、単元を学習する前に比べて社会的事象へ関心を持たせることができた。このことから、手立て②、③、④を組み合わせる学習活動を繰り返すことが有効であったと考える。

課題としては、藩を調べている子供の中には深掘りをし過ぎたために明治の国づくりに関することを掴むことが難しくなっている子供や得られた情報をまとめる際に躓いている子供が見受けられた。適宜声掛けを行い、学習する内容について共に振り返るなどの支援を行ったが、活動に取り組む段階で、活動の目的と調べる内容やまとめ方をより焦点化して伝える必要があると感じた。また、今回の実践においては、教師が授業の中で思考体力を意識するように声掛けを行い続けたことや、毎時間板書したことにより意識して活用しながら考えることができていた。普段から活用していくことができるようにするためにも、他教科でも取り入れることや習慣付けることが必要である。子供自身で活用することにより、様々な事象に対して関心をもって考えていくことができると考える。



【他班と交流をしている子供たち】

4. おわりに

本稿では、子供が主体的に取り組むことができ、深い学びへとつながる授業を構築するために、「思考体力」を活用した小学校社会科の実践的研究に取り組んできた。

今回は歴史的分野であったため、起こった出来事の意図を深掘りさせ、事実を捉えるだけで終わらないようにすることが必要であることを実感した。また、子供が主体となる授業を構築するためには、活動への取り組み方の習慣化や明確な指示が必要であることを再認識することができた。

今後は、本実践の成果と課題を踏まえて、子供が思考を働かせながら多面的・多角的に事象について考えることができる活動を取り入れていきたい。そして、様々な事象に関心をもつ中で、子供自身がこれからの社会について考え、実行へと移すことにつながる授業の構築を目指したい。

主な引用・参考文献

- 佐藤 学 「学びの共同体の創造—探究と共同へ—」
小学館 2021年
- 国立教育政策研究所 「『指導と評価の一体化』のたの
学習評価に関する参考資料 小学校社会」
2020年
- 奈須 正裕 「次代の学びを創る知恵とワザ」
ぎょうせい 2020年
- 田村 学 「『深い学び』を実現するカリキュラム・マ
ネジメント」 文溪堂 2019年
- 田村 学 「深い学び」 東洋館出版社 2018年
- 文部科学省 「小学校学習指導要領(平成29年告示)
解説 社会科編」 2017年
- 田村 学 「授業を磨く」 東洋館出版社 2015年
- 西成 活裕 「東大人気教授が教える思考体力を鍛える」
あさ出版 2011年

謝 辞

本研究の機会を提供し、ご協力いただいた連携協力校の校長先生をはじめとする教職員の皆様に、心より感謝申し上げます。